

丹沢山麓の山道を歩いていたら、道脇に鳥の羽根が散乱していました。1月半ばの寒い朝です。曇り空から時折小雪も降って、こんな日に来なければよかった、と思い始めていたところでした。

羽根は12、3センチの長いものから短いまで沢山あり、手にとって見ると、オリーブグリーンに混ざった灰褐色に白斑があるのや茶色の縁取りがあるの、うっすらと横縞模様が入っているのなど

色々です。オオタカかハイタカなどの猛禽に襲われたようです。四方に散らばらず汚れていない現場の様子から、今朝方のことで、あまり時間が経っていないと推測しました。

猛禽は鳥を捕まえると、その場で獲物の羽根を嘴を使って抜いてから、安全な場所に運んで食べます。襲われた鳥の羽根の軸には、猛禽の嘴の痕が残っていると聞いたことがあります。早速調べてみると、成程、羽軸の根元近くに、嘴で抜いた痕と思える筋が残っていました。羽根の長さから、獲物はかなり大型の鳥と思われる。今頃は隠れ場で満腹になっているタカの姿を想像しながら、私は散らばっている羽根を拾いました。

(やっぱり来てよかった・・・)

野生の生き物の気配に包まれて色々想像し、私はすっかり元気になりました。

帰宅すると、早速「野鳥の羽根」(世界文化社)

を取り出しました。「色と形で判る実物大識別図鑑」という副題があり、1本ずつの羽根から鳥を検索する本です。

羽根の長さや模様から調べていくと、「トラツグミ」に行き着きました。白斑のある長いのは風切羽、翼の所です。

横縞模様のは尾羽でした。

トラツグミ、懐かしい名前です。12年ほど前までは、能ヶ谷でもトラツグミの声を聞いたり、稀に姿を見ることもありました。

3月に入ると夜明け前「ヒーヒー」という単調な声が、毎年聞こえてきました。ブランコが「キー」ときしる音に似ていて、鳥の声とは気がつかず、うつらうつらしながら、なんだろうと不思議に思っていました。

トラツグミの囀りと分かり、夜明け前や夕方、雨の日などに鳴くと分かってからは、声が聞こえると、耳を澄ますようになりました。ツグミより少し大型の黄色と黒のまだら模様のツグミです。

冬晴れの空を見上げると、鶴川でも、オオタカ、ハイタカ、チョウゲンボウなどの猛禽の飛ぶ姿に出会います。少なくなった森の中でも、狩るもの、狩られるものの世界は繰り返されていることでしょう。



